

破水、

不幸せじゃないと安心できなくなった身体で

鴨居にぶら下がる牽引ロープ

適当なハグなら

機械だって人形だってできる

祈りは絶望に似てるから祈らないことにした

ただ、

密葬したあの人を家族と呼びたい

土葬すれば針葉樹林が拡がって

もうすぐ夏だなんて呟いて

トンネルを抜けると、背高草が生い茂っている

そういえば本当は走ることが好きだった

ぼくへ

きょうもうまれてきてくれてありがとう

あしたはじぶんのことつたえてみようとおもいます

ぼくへ

きょうもうまれてきてくれてありがとう

だめでした

びょうきだっておもってしまいます

しょうがないよね

ぼくへ

まただめでした

きょうがだめでもあしたはっておもってしまいます

あしたをあしたとよびたいとおもってしまいます

こんなじぶんがだいきらいです